



2021年11月30日

各 位

会社名 株式会社 ジーニー
代表者名 代表取締役社長 工藤 智昭
(コード番号：6562 東証マザーズ)
問合せ先 CFO兼経営企画室長 菊川 淳
(TEL. 03-5909-8177)

社内のあらゆるデータを簡単に連携・統合できる 「GENIEE DATA CONNECT」の提供開始のお知らせ

当社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：工藤智昭、以下ジーニー）は、昨今の社内外のデータ活用ニーズの高まりを背景に、データの利活用を促進する「GENIEE DATA CONNECT」（ジーニー データ コネクト）の提供を開始することを決定しましたので、お知らせいたします。

記

1. 背景と目的

昨今、DX推進の高まりとともにデータの利活用を進める企業が増えており、総務省が2020年12月に発表した「情報通信白書」の「日本企業におけるデータ活用の現状」によれば「今後はデータを活用していきたい」と回答した企業の割合が、各事業領域の平均で30%を超えています。また、複数のSaaSシステム導入が一般化している一方で、データがシステムごとに分断され活用しきれていない課題があります。さらに、社内にデータエンジニアが不在で、データ集計を行えていない企業も多く存在しています。

このような背景から、ジーニーでは社内にデータエンジニアがいなくても社内に散在するデータを簡単に連携・統合できる「GENIEE DATA CONNECT」の提供を開始いたしました。

■「GENIEE DATA CONNECT」について

社内複数システムに存在するデータを、コストを省いて手軽に抽出・加工・統合できるデータ連携サービスです。「GENIEE DATA CONNECT」を活用することで、煩雑かつメンテナンスが大変なデータ基盤構築や保守業務コストを削減できます。

■特長

多くのデータ連携サービスは、導入企業側で設定する必要があり、データエンジニアによる構築作業が必要です。

「GENIEE DATA CONNECT」では、当社が要件をヒアリングし、導入・運用から保守までトータルでサポートするため、社内にデータエンジニアが不在でも安心して導入いただけます。また、基幹システムやExcelも含めたあらゆるシステムとの連携が可能のため、企業の要望に応じた様々な要件に対応できます。

■活用例

- ・複数システム間のデータ入力を自動化し、多重入力の手間を解消
- ・社内データを一元管理し利活用しやすい状態を実現
- ・複数システムのデータを抽出・加工・統合することで分析環境を整備
- ・データ連携構築を担うデータエンジニアの工数削減

2. 今後の当社業績の見通し

本件による、2022年3月期の当社連結業績への影響は、軽微であると見込んでおります。

以上